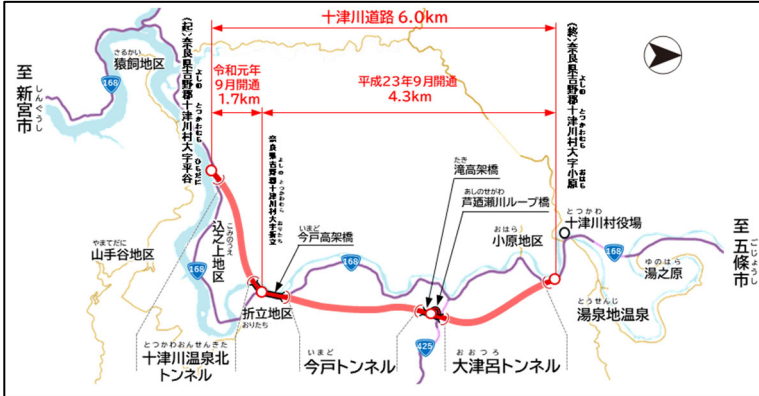


事後評価結果(令和6年度)

担当課:近畿地方整備局 道路部 道路計画第一課
担当課長名:西上 康平

事業名	一般国道168号 十津川道路		事業区分	一般国道		事業主体	国土交通省 近畿地方整備局		
起終点	自：奈良県吉野郡十津川村大字平谷 至：奈良県吉野郡十津川村大字小原					延長	6.0km		
事業概要									
一般国道168号五條新宮道路は和歌山県新宮市と奈良県五條市を結ぶ延長約130kmの高規格道路である。「紀伊半島アンカールート」の一部を形成し、紀伊半島内陸部を南北に縦貫する極めて重要な幹線道路である。 一般国道168号十津川道路は、五條新宮道路の一部を形成し、通行止めによる迂回の回避、通学交通の確保、救急救命活動の支援等を目的とした延長6.0kmの道路である。									
地域の防災面の課題									
・ 紀伊半島大水害時(H23.9.2)は、現道国道168号で道路崩壊による通行止めが発生。 ・ 現道国道168号は過去20年間では大規模な通行止めが11件発生し、住民生活に大きく影響。									
事業概要図									
■位置図									
									
■平面図									
									
事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H8年度	用地着手	H12年度	供用年	(当初) / H28	変動	1.2倍
		都市計画決定	一年度	工事着手	H14年度	(暫定/完成)	(実績) / R1		
	事業費	計画時	(名目値)	— / 約280億円	実績	(名目値)	— / 306億円	変動	1.1倍
		(暫定/完成)	(実質値)	— / 282億円	(暫定/完成)	(実質値)	— / 311億円		
	費用対効果 分析結果 (当初)	事業の効果等 ○災害時の迂回解消を含めた走行時間の短縮等(289億円)					費用	227億円 事業費：223億円 維持管理費：4億円	
	費用対効果 分析結果 (事後)	事業の効果等 ○災害時の迂回解消を含めた走行時間の短縮等(693億円)					費用	558億円 事業費：517億円 維持管理費：40億円	
	事業遅延の理由								
なし									

	客観的評価指標に対応する事後評価項目 ①災害への備え - 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成：国道169号（五條市～新宮市）、国道42号（和歌山市～新宮市） - 現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消：防災点検要対策箇所数＝16箇所（国道168号 十津川村大字平谷～小原間） - 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消：異常気象時通行規制区間 国道168号 十津川村七色～十津川村小原(20.0km)(十津川村大字平谷～小原解消) ②地球環境の保全 - CO2排出削減量:1878.93t-CO2/年 ③生活環境改善・保全 - 現道等における自動車からのNO2排出削減率(排出削減量:10.71t/年、排出削減率:10割削減) - 現道等における自動車からのSPM排出削減率(排出削減量:0.72t/年、排出削減率:10割削減)
	その他評価すべきと判断した項目 特になし
	事業による環境変化
	環境影響評価に対応する項目 環境影響評価は実施していない。
	その他評価すべきと判断した項目 特になし
	事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業の効果が発現しており、当該事業に関しては、今後の事後評価及び改善措置は必要ないとした事業者の判断は妥当である。
	事業を巡る社会経済情勢等の変化 - 事業区間周辺では、紀伊半島を南北に縦貫する五條新宮道路の整備が進捗。 - 十津川道路の沿線地域の人口は減少傾向で、生産額は横ばい傾向。
	今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 本事業区間を走行する車両の80%以上が十津川道路を利用しており、基幹道路と生活道路としての役割分担が明確化された。また、安定した通学路確保、通行止めに伴う大幅な迂回の回避、救急救命活動の支援等、供用による効果の発現状況について、現時点では特に問題はなく、今後も大きな変化はないと思われるため、同様の事後評価及び改善措置の必要性はないと判断できる。
	計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 - 十津川道路は、災害時の救援・復旧活動の支援、通行止めによる迂回の回避、救急救命活動の支援等、多様な整備効果が確認できた。同種事業においても整備効果の早期発現等が図られる計画・調査及び事業の推進に努める。 - 事業評価手法の見直しについては、今後も継続して種々の整備効果の把握・検証に努めるとともに、便益の計算手法を改善する方法と貨幣換算できない価値も含めて総合的に評価する方法について検討する。
	特記事項 特になし

※ 事業の效果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。

※ 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。